

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	平成20年 11月 6日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 05分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ゆうかり ( 鹿児島県 )
-------------------	--------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<b>30</b>

評価調査員の氏名	氏名 <u>新納 祐子</u>
	氏名 <u>腰 高行</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>野崎 慎也</u> ヒアリングを行った職員数 <u>2名</u>

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103573号		
法人名	医療法人 吉翔会		
事業所名	グループホーム ゆうかり		
所在地	〒892-0871 鹿児島市吉野町5400-1 (電話) 099-244-5481		
評価機関名	NPO法人自立支援センター鹿児島福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成20年12月13日

## 【情報提供票より】(平成20年10月19日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

## (4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	1	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 87歳	最低 80歳	最高 96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしの相良外科 ・ 吉元歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本体医療機関の後方に位置し、ホームの周りには芝生や花壇や畑がある。玄関前には椅子が設置されており、落ち着いた雰囲気のある玄関である。リビングは天井が高く、天窓がついており明るく広々としている。リビングには絵画・習字・写真が飾られている。リビング・ダイニング・居室はつながっていて、さりげなく利用者を見守ることができる。運営者や職員は、認知症ケアのエキスパートとして利用者の笑顔に励まされながら、利用者が日々ゆったりと穏やかに過ごせるよう、また地域とのかかわりが持てるように支援がなされている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ、職員間のミーティングや運営推進会議等で話し合いを行い、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全職員で自己評価を行った。外部評価後は改善点を職員で話し合い、改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	会議では、前回の外部評価を踏まえアドバイスをもらって、改善点の取り組みを行った。また防犯や災害時等の取り組みや行事についての話なども行いながらサービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	年一回家族会を設け意見を聞く環境を整えている。運営推進会議にも参加してもらい意見を聞くようにしている。また面会時など話しやすい雰囲気づくりをしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの地域交流会でもちつき大会やバザー等を開いて地域の方々と交流を図っている。高校生の実習や中学生の体験学習・小学生のサマーボランティアの受け入れを行っている。近くの保育園のクリスマス会にも出かけて行く等、地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立以来の理念を基に、地域密着型サービスとしての理念も作られ取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も理念を共有し、常に理念を基に日々のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでのもちつき大会やバザー等の地域交流会を開いて、地域の方々と交流を図っている。高校生の実習や中学生の体験学習・小学生のサマーボランティアの受け入れを行なっている。保育園のクリスマス会にも参加する等、地域との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行った。外部評価の意義を理解し、改善点に対しては見直しを行い、取り組みもなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では外部評価を踏まえた改善点の取り組みを話しあっている。また、防犯や災害時等の取り組みや行事についての話なども行いながら、サービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括センターと連携を図り、情報交換を行なっている。ホームの行事等に参加してもらい、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ゆうかり通信を発行し、個々の生活の様子や職員の異動等を報告している。金銭帳は面会時にサインをもらっている。必要時は電話でそのつど報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回家族会を設け意見を聞く場を設けている。運営推進会議にも参加してもらい意見を聞くようにしている。また面会時など話しやすい雰囲気づくりをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員がケアに当たっているが、職員の異動等がある時は、通信で家族にお知らせし家族会でも紹介している。また、新しい職員が入る場合は利用者に紹介し、馴染みの関係ができるまでベテランの職員と一緒にケアを行なっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会には積極的に参加している。また院内の勉強会等も定期的に行っている。職員の資格取得にも協力的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野町のグループホームの職員同志で3ヶ月毎に交流会を行なっている。職員のホームの相互訪問等もあり、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行い、環境変化に慣れるまで家族にホームに来てもらったり、寝るまでそばに置いてもらうなど馴染めるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除の仕方・洗濯物のたたみ方等を教わりながら、人生の先輩であるという考えを職員が共有し、お互いに協働しながら、共に学び支えあう関係作りに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で意見や希望を聞き、声かけをしながら把握に努めている。ミーティング時に職員間で情報を共有し、個々の希望にそった生活ができるよう取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に日ごろのかかわりの中で、思いや意見、要望を聞いている。定例のミーティングで職員間で話し合いを行ないながら、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングを行っている。状態の変化が生じた場合や必要時には話し合いを行い、見直しが行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望や状況に応じて、通院介助や送迎等に多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院に併設されたホームであり、利用者・家族のかかりつけ医になっている。また他科受診に連れて行くこともあり、納得を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から利用者の状況に合わせ、主治医・管理者・家族で今後の方向性を話しあっている。ホームとしてのターミナルケアの指針もできていて全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや入浴・失禁等は利用者の誇りやプライバシーに配慮しながら声かけを行なっている。記録や個人情報についての取り扱いにも十分な配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴、外出等個々のペースを大切にしながら、利用者の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と利用者が一緒に調理・準備し、同じテーブルで一緒に食べ、一緒に片付けもなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて入浴を行なっているが、希望に応じていつでも入浴できる対応を行なっている。個室を行なっているが二人で入りたい人もいるので、希望にあわせた支援を行なっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	松ぼっくりのツリーの作品づくりや習字・熱帯魚のえさやり・園芸等、利用者一人ひとりの役割や楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・外食・散歩等、利用者の希望にそって、日常的に外出の支援を行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解しており、日中は鍵をかけずに職員が見守りを行ない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、年2回利用者と共に昼・夜間を想定して、避難訓練や消火訓練を行っている。地域の方にも参加の声をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行なっている。栄養バランスにも配慮し、定期的に法人の栄養士にアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く明るいリビングで、利用者はゆったりと日々過ごしている。フロアには季節の花を飾り、季節を感じる環境作りになっている。食後にはソファでくつろぎながらコーヒーを飲んだりして居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・じゅうたん・琴・家族の写真等、利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせる配慮がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。